



One for Children, All for Children

久我山青光学園

学園便り 1月号
校長 宮田 守
令和7年1月8日発行

新しい年を迎える

校長 宮田 守

新年明けましておめでとうございます。皆様は、どのような新年をお迎えでしょうか。気候変動等も激しい昨今では、なかなか難しいこととは思いますが、今年こそ、大きな災害なく一年が過ぎると良いなと思いながら新年を迎えました。昨年は、お正月に能登半島を中心に大きな地震が発生し、つらい年明けになったことを思い出します。今でも被災された皆さんは御苦労なさっていることでしょう。離れた場所からではございますが、被害にあわれた方には心からお見舞い申し上げるとともに皆様の安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、今、校長室の入り口には、知的障害教育部門の小学部5年生の児童からもらった、紅白のおめでたい色の「お正月リース」が飾ってあります。これは、3センチ四方のフェルトを何枚も何枚も糸でつづったものをリース状にしたものです。フェルトというとても軽い素材でできているのに、ずっしりと重いので、「このフェルトのパーツは何枚ぐらいあるのかな？」と数えてみたところ、なんと325枚もありました！このリースをくれたお友達は、こんな大作を3つも作ったそうなので、その集中力にも脱帽です！他のクラスメイトも同じ作品にチャレンジしているとは思いますが、たぶん6人いれば6通りのリースができます。ほかの友達の作品はどんなものだったのでしょうか。こういった「作品」を見るとき、私たちはつい「出来栄え」を考えてしまいがちですが、「なんでそうしたのかな？」と「作品の意図」を考えると、また新しい発見があります。ぜひ皆さんも作品の「言いたいこと」を見つけてみてください。

さあ、久我山青光学園の子供たちは、今年、どんな新しい表情を見せてくれるのでしょうか？ 今から本当に楽しみです。今年もよろしく願いいたします。

視覚障害教育部門 進路指導部 宮地 朝子

12月10日（火）に中学2年生が八王子盲学校の高等部見学に行ってきました。校舎建て替えのため、9月より移転した仮校舎と近接した寄宿舎を見学してきました。仮校舎でありながら、広々とした教室や廊下、パソコン室や屋上に生徒から驚きの声があがっていました。高等部には選択科目があり、同じ学級の生徒でも違う授業を受けている様子を見ることができました。説明会では、様々な学校行事や高等部卒業後に向けた進路に関する学習が1年生から始まることなども学びました。高等部生活のイメージをもつことができたのではないのでしょうか。寄宿舎には理療科の生徒も生活していることや、いくつかのタイプの居室や自習室等も知ることができました。

9月には文京盲学校の見学にも行きました。都立の盲学校高等部、それぞれを実際に行き見て、学校の授業の様子や雰囲気を知ることができたことと思います。中学部卒業後の進路を考える機会となりました。

知的障害教育部門 生活指導部 中野 由季

12月11日（水）、12日（木）に、『地震体験車 なまず号』に乗車し、地震の際の避難行動をとる練習をしました。

『なまず号』は、震度2～7の揺れに加えて、過去に発生した大地震の再現もすることができるそうです。実際に揺れ始めると、幼児・児童・生徒の皆さんは、「机の下に入る」「机の脚をつかむ」「ダンゴ虫のポーズをとる」など、どの学年も身の安全を守るための行動をとることができました。中には、恐くて動けなくなる子もいましたが、教員の支援を受けながら体験することができました。

起震車体験を行った直後の、12月16日（月）～20日（金）に実施した避難訓練週間では、訓練の放送を聞くと素早く避難行動をとることができました。

今回の体験を通して、実際に地震が起きた時のスムーズな避難行動につながる良い機会となりました。

